演題番号22	認知症患者の入院前情報の重要性
発　表　者	安芸太田病院　看護師　片山　庄蔵
共同発表者	山岡　由香里，佐々木　日出子

認知症とは，発症する時期や障害を受ける脳の部位などにより，その症状や進行は様々であるが確実に認知機能は低下し，自分のことを自分で語られなくなってしまうことが多い。

そこで当病棟では，パーソン・センタード・ケアの考え方である，認知症を持つ人を一人の「人」として尊重する考えから，平成26年より入院前情報用紙を導入し，その方が歩んできた人生（趣味・嗜好・馴染は何かなど）の情報から，その人を知ることに繋がり，看護に活かす事ができ，現在も有効利用している。

約５年が経過し，利用してみて感じたことについてのアンケートを実施し，スタッフの意見を聞き一部を改訂（案内文・記入例を追加）したので，ここに紹介報告する。

MEMO